

ケロちゃん通信

2021年 6月 第72号



ながおか医療生協
あたごこどもクリニック

〒940-0038 長岡市琴平1丁目2-1 電話番号0258-36-5810
<http://www.nagaoka-iryu-seikyoku.jp/>

☆新緑の季節、風も心地よい季節を迎えています。今年は梅雨入りも早そうです。それに伴い梅雨が長くなるのか、梅雨明けが早くなるのかはわかりませんが、そのあとの夏が猛暑になったり、台風がたくさんこないか心配ですね。いつもならヒトメタニューモウイルス感染症がはやり、喘息も悪化することが多い時期ですが、今年はどうでしょうか？相変わらず感染症の流行はありませんが、いわゆるかぜのお子さんは増えてきています。コロナも早く収束してほしいものです。

☆ 6月より土曜日の診察時間を12時30分まで延長します。慢性疾患・予防接種の予約枠が増えますのでご利用よろしくお願います。

☆ 地域の皆様の要望にお応えするため、新型コロナウイルスワクチンの接種も専用時間帯を設けて実施予定です。まずは小児科という特性から、一般の方への接種が開始になったら開始したいと予定しています。詳細がきまりましたらご連絡いたします。

☆ 当院では新型コロナウイルスのPCR検査を行っておりません。ご希望の方は、新潟県新型コロナ受診・相談センター(025-256-8275)または長岡保健所(0258-33-4932)にご相談ください。

☆ スギ花粉症やダニによるアレルギー性鼻炎でお悩みの方は、当院でも舌下免疫療法を行っておりますのでご相談ください。スギ花粉のシーズンもほぼ終了しましたので、舌下免疫療法の新規開始を再開します。

6月の診療予定:本間医師 (11日午前)

診療案内

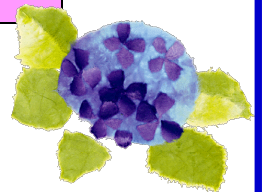
- ・感染予防のため、発熱、かぜなどの急性疾患を主に診る一般外来と慢性疾患(感染性のない疾患や定期処方など)を診る慢性外来の診療時間を分けています。

時間	月	火	水	木	金	土
8:30	一般外来 (急性疾患)					
11:00	予防接種 (1歳以上)					10:30~
12:00	慢性外来					~12:30

13:45	予防接種 健診 (1歳未満)					
15:00	予防接種 (1歳以上)					
16:00	一般外来 (急性疾患)					
17:30						

- ・平日午前11:00-12:00、午後13:45-16:00、
土曜日午前10:30-12:30は、一般診療はできませんので、ご協力お願いいたします。

- ・スマイリーでは、急性疾患は「一般外来」から、慢性疾患・定期処方等は「慢性外来」からご予約ください。
- ・もちろん、急を要するような場合には、すぐにご連絡ください。詳しくはホームページのお知らせをご覧ください。



チックについて 1: 症状

◇チックは「単一筋、または複数の筋群におこる短時間の、素早い、反復する、無目的にみえる、常同的な運動」と定義されます。チックは症状名でもあり病名でもあります。自分の意志とは無関係に動く不随意運動で、脳の一番奥にある運動や学習に関連する大脳基底核という部分のドーパミン系、セロトニン系、ノルアドレナリン系などの脳の神経回路が関与する病気と考えられています。チックはわざとやっているわけではありませんし、クセでもありません。親の育て方や本人の性格が原因で起こることもありません。

◇チックの発症率はこどもの約1%といわれ、決してめずらしいものではありません。成人までには約50%が消失し、40%は改善しますが、5-10%は症状が残ります。

◇幼児期には単純チックが多く、部位は目、鼻、口、首、肩に多く、目をぱちぱちさせる、目を回す、鼻をピクピクさせる、鼻の下をのばす、首を振る、肩を上げるなどの症状がみられます。音声チックは、鼻をならす、咳払い、うんうん、キーなどの奇声が多く、小学校中一高学年になると、より複雑な運動症状となり、音声チックも音ではなく単語、文章などの意味をもつ言葉になることがあります。チック症状によって、集中できなくなったり、舌に歯をこすりつけて痛くなったり、手が動いてもものを落としてしまったり、ノートが書きづらくなったり、歩きづらくなったり、生活面、学習面での困りごとでもできます。

◇症状が進行すると、チック症状の前にむずむずする感覚がでることもあります。またADHDがともなうと衝動性や攻撃性の亢進がみられることがあります。

◇症状には波があり、不安、緊張、疲労、ストレスなどで悪化することがあります。また学校などではコントロールされていますが、家に帰って安心した状況になると悪化する場合があります。ゲーム機器やスマホなども悪化因子になることがあります。

◇これらが1年未満のものを暫定的チック症、1年以上持続するものを持続性運動または音声チック症、1年以上2種類以上の運動チックに加え、音声チックが加わったものをトゥレット症と診断します。

◇むずむず足症候群、強迫性障害、不安障害、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症などを合併することもありますので、併せて治療が必要になることもあります。

◇目に見える症状なので、学校などで、自信を失ったり、傷つかないような心理的な配慮も必要になります。

◇他の病気と同じように症状は軽症から重症まであり、合併症も様々ですが、ご心配であればいつでもご相談ください。

次回(治療)に続きます。